美樂会

会報　第２４３号　（平成２４年１月発行）

東京都中央区京橋 3-9-2 プラザ京橋ビル　K's Gallery 内
Tel 03-5159-0809　Fax 03-5579-9004　メール　kgallery@eagle.ocn.ne.jp
ホームページ　http://bigakusya.com/

第 267 回（ 12 月 ）例会報告

講演会　「日本美術のオリジナリティ　－　素朴とわび　－」

跡見学園女子大学教授　矢島新　氏

２０１１年１２月４日（日）
参加者　：　会員およびゲスト１５名
場所　　：　K's ギャラリー

〈報告：鈴木忠男（幹事）〉

今回の報告は、まとめ方（伝え方）が難しい。当日は澤登さんにプロジェクターとパソコンを用意してもらい、多数の写真・図版を映しながらのトークなので、それを再現することは無理である。閃いた方法は、矢島さんから事前にメールしてもらったレジメに当日のトーク内容を付け加えることでした。以下「　」内が加えた文章です、切れ切れになってしまいましたがご容赦ください。

「午前中に東博の常設展に学生を連れて行ったが、どうもわび系美術が良くわからないようだった」

《素朴さを愛するということは日本文化の根幹に関わる問題では？》

＊巷に氾濫する素朴な文字や絵

＊マンガやゆるキャラの隆盛

「中国や西洋の美術は完璧さを求めてきたのではないか、この看板のへたうまな字体には味わいがある、最近では絵手紙ブームが、昔には武者小路実篤の人生メッセージがある。奈良のセント君は始めは非難されていたが、今ではゆるキャラブームとなりサミットまで開かれている。中国だったらリアリズム型キャラとなるだろう」

素朴《人為の完璧を求め過ぎないおおらかな態度》というほどの意味で用いる西洋発の素朴（ルソーらの素朴派やアールブリュット）とは性格が異なる

「２０世紀日本の山下清、丸木スマらの絵画とは違う」

１、素朴指向の萌芽とわびの美意識の登場

・天平の仏教美術は日本を代表するか？（現在は古色をまとうが本来は極めて大陸的）